

普及活動現地情報

「農業現場では、今」

平成 29 年 7 月号



【有田振興局】7/7 有田農業女子プロジェクト第1回研修会を開催！

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。



< 目 次 >

頁数

| | |
|---|----------------|
| I 海草振興局 | 1 - 3 |
| 1. コマツナのコナガ防除対策の検討 | |
| 2. 新規資材を使った土壌還元消毒法の現地試験を開始 | |
| 3. 農家経営研修会を開催 | |
| II 那賀振興局 | 4 - 5 |
| 1. “ももの出前授業” を開催 | |
| 2. 那賀地方有機農業推進協議会が共育支援メニューフェアに参加 | |
| III 伊都振興局 | 6 - 7 |
| 1. 学校給食での地産地消拡大を目指して橋本市で検討会を開催 | |
| 2. 農業技術講習会（果樹専門コース）の開催 | |
| 3. 農業用無人ヘリコプターを用いた水稻の病害虫防除の取組 | |
| 4. 平成 29 年度隅田地域農産物利用推進協議会総会・研修会を開催 | |
| IV 有田振興局 | 8 - 11 |
| 1. 農業機械の利用方法とメンテナンスならびに カンキツの今後の管理研修会の実施 | |
| 2. 有田農業女子プロジェクト第 1 回研修会を開催！ | |
| 3. 有田地方農業士協議会研修会を開催！ | |
| 4. 御霊小学校でみかんの摘果授業を開催！ | |
| V 日高振興局 | 12 - 16 |
| 1. 1. 重点プロジェクト【梅の高付加価値化と複合経営の推進 ・梅干用途以外の有望な新品種の導入促進】 ～ウメ新品種「露茜」 調査と追熟試験を実施～ | |
| 2. 印南町農業士会が先進地研修会を開催 | |
| 3. 日高地方農業士会女性部会が先進地研修会を開催 | |
| 4. 日高川町新果樹研究会がかんきつに関する講演会を開催 | |
| 5. 印南町 4 H クラブが先進地研修会を開催 | |
| 6. 県議会議員と日高地方農業士会との意見交換会 | |

VI 西牟婁振興局 **17-18**

1. 重点プロジェクト【新品種導入による果樹産地の活性化】
～温州ミカン「YN26」実証園で摘果およびマルチ被覆を実施～
2. 川添茶PR 川添茶を使ったお茶の淹れ方を体験しよう！

VII 東牟婁振興局 **19**

1. 那智勝浦町苺生産組合が総会・研修会を開催

VIII 農林大学校 **20-21**

1. 産官学連携プロジェクト始動！ローソンと協働で商品開発(全3回)
2. 和歌山食材テロワール事業の開催

IX 農林大学校 就農支援センター **22-23**

1. 平成29年度ウイークエンド農業塾 農業入門コース(第1班)閉講
2. UIターン就農相談フェアを開催

I 海草振興局

1. コマツナのコナガ防除対策の検討

7月4日、和歌山市布引地区の一角（約4.8ha）にコナガの交信攪乱用フェロモン剤約2,000mの設置を行った。

今回使用した交信攪乱用フェロモン剤は、現在開発中のロープ状製剤（50m巻き）で、従来のディスペンサータイプ（20cm/本）に比べて設置作業が容易となっている。

この取組は、農林水産業競争力アップ技術開発事業を活用し、農業試験場が中心となって、JAわかやま、農業水産振興課が連携して行う。この日は農業試験場、JAわかやま、農業水産振興課、農薬メーカーの担当者ら9名で作業を行い、2チームに分かれて約3時間で設置を終えた。

今後、定期的にフェロモントラップ誘殺数や実際の被害調査などを行い、防除効果の確認を行っていく予定。

当地区においては、コナガに対する主要な農薬で感受性の低下が懸念されており、交信攪乱による防除技術の確立が期待されている。



フェロモン剤設置に当たり注意点を
確認する参加者



設置作業

2. 新規資材を使った土壌還元消毒法の現地試験を開始

7月7日、海南市高津地区のミニトマト栽培ほ場（前作終了）において、新規資材（糖含有珪藻土）を使った土壌還元消毒法の現地試験が始まった。

この取組は、農業試験場の現地試験として行われるもので、JAながみね、農業水産振興課が協力している。

このほ場では、毎年ふすまによる土壌還元消毒を実施しているものの、根腐萎凋病やネコブセンチュウが発生していることから、今回、ふすまよりも処理中の臭いが少なく、土壌深くまで消毒ができると思われる当資材を使った試験を実施することとなった。

この日は、あらかじめ次作に向けた基肥や土壌改良資材を施用し耕耘したほ場へ、糖含

有珪藻土を 10a 当たり 1t の施用量となるように散布し、管理機にて攪拌後、かん水チューブを設置、ポリ被覆を行った。

その後約 5 時間半、さらに翌日 3 時間程度かん水チューブで散水し、湛水状態として土壌還元消毒処理を開始した。

今後は、7 月末にポリ被覆を除去し、土壌のサンプリングや次作の生育状況などを見ながら、土壌還元消毒の効果を確認していく予定。



糖含有珪藻土の散布



糖含有珪藻土の攪拌作業



かん水チューブの設置



ポリ被覆

3. 農家経営研修会を開催

7 月 25 日、紀美野町総合福祉センターで和海地方農業生活連絡協議会（宮尾修司会長）と農業水産振興課の共催で、平成 29 年度農家経営研修会を開催したところ 45 名の会員が参加した。

はじめに、日本政策金融公庫 和歌山支店 皆川農業食品課長より農業経営の法人化や 6 次産業化等に取り組む農業経営者へのアドバイスなどを行う「和歌山県農業経営アドバイザー連絡協議会」の活動や活用方法についての話題提供があった。

続いて、和歌山県農業経営アドバイザー連絡協議会の会長でもある税理士法人 風神会計事務所の風神正典氏から、「農業後継者へのスムーズな経営継承と第三者移譲について」と題して講演をしていただいた。

講演の中では、経営継承をスムーズに行うためには、経営主として帳簿や計算書と共に「事業計画」を明確にしておくことが重要であるとのことから、この計画書の作り方について農産物の生産計画や資金計画、粗利計画などの構成要素に分けて解説がなされた。次に、継承・委譲の際のポイントについて、①個人農業者が後継者に経営継承をおこなう場合に、経営移譲する前にやっておくべき事柄や、相続、贈与等の手続きなど、②法人で経営継承する場合の株式会社や農事組合法人など形態の違いによる制度上のメリットなど、③近年新しい形の経営移譲として注目されている第三者移譲の場合の、移譲者と継承者間のそれぞれの適性を踏まえた資産の取扱い、移譲方法などの注意点について説明がなされた。

風神講師の講演は丁寧な説明で分かりやすく、出席者からも活発に質問が出されるなど有意義な研修となった。



皆川農業食品課長「和歌山県農業経営アドバイザー連絡協議会について」



風神講師「農業後継者へのスムーズな経営継承と第三者移譲について」

Ⅱ 那賀振興局

1.“ももの出前授業”を開催

7月7日に紀の川市立中貴志小学校5年生59名を対象に、那賀地域の特産物である“ももの出前授業”を行った。この授業は、児童達が県産果実の知識を深め、農業の理解促進と郷土愛や食に対する感謝の気持ちを醸成することを目的として行っている。

最初に果樹園芸課より桃の贈呈式が行われ、続いて桃生産農家で地域農業士の中浴泉氏から、農業経営の状況、桃の栽培から収穫・出荷までの実際的な取組について説明があった。また、普及指導員が和歌山県の桃の生産量や品種、栽培方法などを説明した。

その後、家庭科室で桃の皮むき体験を行い、丸かじりした。その際、中浴氏から提供して頂いたジュースとともに、管内の女性起業グループが製造した桃のジャムをクラッカーにのせて試食した。

児童からは、桃についての素朴な質問が飛び交い、桃についての関心が高まったと感じた。今後も当課では、地元の特産物についての食育を推進していく。



桃贈呈式



中浴氏による桃栽培の説明



桃の皮むき体験



桃ジャムとジュースの試食

2. 那賀地方有機農業推進協議会が共育支援メニューフェアに参加

那賀地方有機農業推進協議会（会長 関弘和）は、県教育委員会が7月31日に和歌山ビッグ愛で開催した共育支援メニューフェアに参加した。

当フェアは企業、大学、NPO等の団体及び行政機関等が学校教育や社会教育関係者に対し、様々な支援メニューを提案し情報交換する場である。同協議会は、子どもたちにも有機農業に触れてもらいたいと希望し、活動してきており、今回「学校での農業に関する授業」と「農作業体験」を教育・社会教育関係者らに提案した。

フェアには56の企業や団体が参加し、来場者は約250名であった。当協議会のブースにも支援学校の先生や幼児教育の関係者らが訪れ、支援内容等について意見交換を行った。学校の先生方は、農家が学校の畑へ出向いて指導するという点に興味を持ち、持ち帰って検討するとのことであった。

また、11月には学生への農業教育の一環として、県立那賀高校で有機農業に関する授業を行う予定である。

当協議会の活動や有機農業のことを広く知ってもらえるよう、来年度も積極的に参加する予定である。



那賀地方有機農業推進協議会のブース



ブースを訪れた教育関係者への説明

Ⅲ 伊都振興局

1. 学校給食での地産地消拡大を目指して橋本市で検討会を開催

橋本市の出塔柏原営農研究会学校給食納入部会(会長：笠原伸也氏、以下給食部会)は、地元農産物の利用拡大を図るため、栄養士等との話し合いを開催している。7月21日に橋本市高野口学校給食センターにおいて、部会員7名、給食センター関係者9名、教育委員会、農業水産振興課が出席して平成30年9月から稼働する新給食センターへの納入方法を中心に検討を行った。

給食部会は、平成18年から給食センターへの農産物の納入を開始し、平成28年度には会員10名で36品目の野菜や果実約45トンを市内2箇所の給食センターと、きのかわ支援学校へ供給している。

関係機関から様々な意見が出された。中でも、給食部会に対しては、食育の観点からも地元産の食材を使っていきたいが虫の混入のないように、旬の品質の良い物が欲しい等についての要望があげられた。

給食部会は、今後とも計画的な作付けと適切な栽培管理を行い、給食の取り組みを推進していく。

*新給食センター：橋本市内にある2箇所の給食センターを統合。市内小中学校の4,800食を調理。



検討会の様子

2. 農業技術講習会（果樹専門コース）の開催

7月25日、農業水産振興課は振興局中会議室において農業技術講習会（果樹専門コース）を開催し、11名が受講した。

このコースは、柿の基礎技術を学習する果樹コースとは別に、前年に果樹コースを修了した方やより深く専門的に学習したい方を対象に実施しているもので、平成28年度に開講し、今年は2年目となる。

今回の内容は、「柿の生理・生態、品種」、「土壌肥料の基礎、施肥」についての座学が中心で、普及指導員が説明した。

受講者からは、紀の川柿（樹上脱渋処理した果実）の収穫時期、効果的な施肥法等について、次々に質問が出された。

また、病虫害診断については、柿の病虫害の実物を見ながら行い、受講者は写真とは様子が違うこと、初めてみる種類もあるなど、一様に驚いている様子であった。

今後、12月に剪定実習、3月に接ぎ木実習を実施する予定である。



講習会の様子

3. 農業用無人ヘリコプターを用いた水稲の病害虫防除の取組

7月27日、かつらぎ町天野にて、天野ヘリ共同防除研究会（会長：山本弘幸氏）がヤンマーヘリ&アグリ株式会社に依頼し、産業用無人ヘリを活用した水稲の病害虫防除が行われた。

平成27年度からの取組で、3年目となる今年は34haを対象に実施。当日は1班4名の2班体制で地区内の防除を行った。

平成27年度に初めて無人ヘリによる防除を導入した時は、防除効果に不安があったことから7月に1回の実施であったが、手散布と同等の効果が得られたこと、経費も手散布よりやや高い程度に抑えられたことから、平成28年度から7月と8月の2回実施している。本年度は8月10日に32haを対象に2回目の散布を予定している。

今後は当課から、病害虫の発生状況を確認しながら箱処理剤及び散布薬剤の種類・効果や散布時期について指導を行う。



作業中のヘリ

4. 平成29年度隅田地域農産物利用推進協議会総会・研修会が開催

7月29日、隅田地域農産物利用推進協議会（会長：乾 幸八氏）が橋本市の隅田地区公民館において、平成29年度総会を開催した。

はじめに、会長から「本会は今年で32年目の活動となる。秋に開催予定の野菜まつりに出品される農産物のレベルも高く、各会員の農業に対する熱意と関係機関の支援の元、今後ともますます盛んに活動を継続していくので協力をお願いしたい」と挨拶があった。

総会終了後に研修会が開催され、農業水産振興課からニンジン、タマネギ（マルチ栽培）、じゃがいも（春作、秋作）の栽培について情報提供を行った。

当課では、これからも農業生産技術の指導とともに地域の活動をサポートしていきたい。



乾会長のあいさつ



研修会の様子

IV 有田振興局

1. 農業機械の利用方法とメンテナンスならびに

カンキツの今後の管理研修会の実施

就農して間もない農業者を対象に対して実施している「アグリビギナー等技術経営研修」の2回目を7月4日に果樹試験場において実施し、新規就農者や4Hクラブ員30名に加え、有田地方農業士協議会から9名が参加した。

農業機械に関することについては、有限会社三木鉄工所（有田川町）の三木宏之氏より、使用頻度の高い刈払機、チェーンソー、動力噴霧器、モノラックについて、ケガをしない使用方法や故障を防ぐメンテナンスを中心に、実物を見せながら説明があった。

カンキツの今後の管理については、果樹試験場栽培部の鯨部長より、着花量に影響する要因、生理落果の軽減対策や中晩柑の果皮障害（こはん症、水腐病）の発生要因と対策等について、分かりやすく説明があった。

また、今回初めての取り組みとして、研修終了後グループに分かれ、農業士の方々を進行役として意見交換を実施した。自己紹介のあと、新規就農者から困っていることや聞きたいことを発言してもらい、農業士が経験を踏まえた助言をする形で進め、各グループが内容をまとめて発表した。

終了予定時間まで会話が途切れることがなく、話を聞くだけの研修よりも良かったという意見があったことから、今後も内容と進め方を検討して実施していきたい。



農業機械の実物を見ながら研修



高品質安定生産のポイントを研修



5～6人のグループに分かれ、
農業に対する思いを共有

2. 有田農業女子プロジェクト第1回研修会を開催！

7月7日、果樹試験場の会議室にて「有田農業女子プロジェクト第1回研修会」を開催し、管内の概ね45歳以下の農業女子22名及び女性農業士4名が参加した。本イベントの目的は、普段あまり交わりのない農業女子同士が交流することで知り合いの輪を広げ、農業についての知識や技術を身につける場をつくることである。

研修会では、はじめに大塚製薬株式会社の久富健太氏より「熱中症の予防と対策」について講演が行われた。参加者らは熱中症になる仕組みや、作業中に体調不良を感じた時の対処方法等について熱心に耳を傾けていた。

意見交換会では、5～6名のグループに分かれて「夏場の作業で気を付けていること」や「女子プロジェクトで何をしてみたいか」等について話し合った。

意見交換終了後、各グループにインタビューした結果、「女性向けの作業着のデザインを考えてみたい」、「ジビエについて学びたい」といった意見が得られた。

次回の研修会は9月下旬頃を予定している。農業水産振興課では、地域をより活性化するため、女性農業者の活動支援に力を入れていく。



(株) 大塚製薬久富健太氏による講演



意見交換会



参加者

3. 有田地方農業士協議会研修会を開催！

7月10日に果樹試験場において、有田地方農業士協議会研修会が開催され、管内各市町から農業士及び関係者合わせて57名が出席した。

研修会ではまず、果樹試験場栽培部鯨部長より「今年の温州みかんの状況と栽培のポイントについて」と題して情報提供が行われた。

ここでは、今年産の温州みかんの着花状況や今後の栽培管理における当面の対策、秋肥の施肥方法など、また、昨年問題となった中晩柑類の果皮障害について、発生要因や対策などの説明があった。

会員からは、今年産の果実生産をより良いものとするために数々の質問が出され、熱心な質疑応答が行われた。

続いて行われた講演会では、講師に株式会社ぐるなび大阪営業所ぐるなび大学の戸田康次朗氏を迎え、「生産者の差別化事例とぐるなびの取組みについて」と題し、今まで取り組んできた事業“こちら秘書室 接待の手土産”を中心に、地域活性化の取組みについて講演が行われた。

会員からは、「いろいろな視点や目の付け所があり、考え方を広げることができた。」との意見が出た。

農業水産振興課では、今年度も技術研修会や現地検討会など事業計画に沿った取り組みを行い、有田地方農業士協議会の活動を支援していく。



果樹試験場 鯨部長による情報提供



(株)ぐるなび 戸田氏による講演

4. 御霊小学校でみかんの摘果授業を開催！

有田川町立御霊小学校では、地元産業への理解を深めるため、3年生(32名)の総合的な学習の授業で温州みかんの学習を行っている。

7月21日、第2回目の学習としてみかんの摘果授業を行った。授業では、普及指導員がみかんの栽培管理を説明し、その後、学校付近の園地で有田川町4Hクラブの玉置泰伸氏が摘果の必要性や方法について説明した。例年であれば摘果の実習も行うが、今年は着果が少なかったため、スケッチのみとなった。

児童からは、「どうして今の時期に花が咲いているものがあるの?」、「つるつるしていな

「い果実があるの？」といった質問が数多く飛び出した。

今後も、農業水産振興課では農業教育推進事業として学習の支援を行っていく。



みかんの栽培管理についての授業



玉置泰伸氏による摘果の授業



果実のスケッチ

V 日高振興局

1. 重点プロジェクト【梅の高付加価値化と複合経営の推進・梅干用途 以外の有望な新品種の導入促進】

～ウメ新品種「露茜」 調査と追熟試験を実施～

農業水産振興課では、「梅の高付加価値化と複合経営の推進」を普及活動の重点プロジェクトの一つとして取り組んでおり、この中で、果肉が赤く梅干用途以外の加工品開発が期待できる有望な新品種「露茜」の導入を推進している。

「露茜」は、果樹試験場うめ研究所の研究で、樹上で着色させるより着色始めの果実を収穫後追熟させる方が熟度のばらつきによる果肉の着色不良が少なくなることがわかっている。本年、出荷予定の生産者に、この追熟方法に適した果実がわかるカラーチャートを記載したチラシを配付し、適期収穫を呼びかけてきた。

収穫時期である6月12日から7月10日まで、果樹試験場うめ研究所・JA紀州と連携して、JA紀州みなべ統合選果場に追熟のため週1回集荷される「露茜」果実の着色状況を収穫コンテナ毎に調査した。その結果、集荷日によってばらつきがあるものの、9割以上が適期収穫されていた。追熟庫で追熟させた後の着色調査では、一部で緑色部が残る果実もあったが、そのほとんどが適切な着色状況となっていた。

当課では、来年の出荷に向け、この結果を生産者にフィードバックするとともに、関係機関と協力して適期収穫の啓発を行っていく。



収穫適期の露茜果実



追熟後（上）、
着色程度・腐敗を確認・選別（下）

2. 印南町農業士会が先進地研修会を開催

7月7日、印南町農業士会（尾曾紀文会長）が先進地研修会を開催し、会員12名が参加した。

今年度は農薬（特に殺虫・殺ダニ剤）の適正使用をテーマに、大阪府河内長野市の日本農薬株式会社総合研究所を訪問した。

日本農薬株式会社の研究員から殺虫剤の作用性や使用にあたっての基礎知識、また I R A C（Insecticide Resistance Action Committee 殺虫剤抵抗性対策委員会）による作用性分類に基づく効果的な薬剤のローテーションや、薬剤に関する最近のトピックスなどについて講義を受けた。また、研究所内の試験施設・圃場の見学を行い、担当研究員から農薬の開発から各種効果試験までの流れなどについて説明をうけた。参加者の中には、最近薬剤散布の効果が低くなっていると感じている方もおり、質疑応答では研究員らと熱心な議論が交わされた。



講義の様子

3. 日高地方農業士会女性部会が先進地研修会を開催

7月24日、日高地方農業士会女性部会（鶴尾安代会長）がかつらぎ町で先進地研修会を実施し、会員11名が参加した。

最初に、レストランと農産物加工・販売施設を備えた「こんにやく工房」において、生産に加工や流通を結びつけた6次産業化を積極的に展開する農事組合法人遊農の理事長楠尾肇氏から、農産物加工品の製造について研修を受けた。販売、商品化、費用対効果等の製造に向けての基本的なことから実践まで色々なノウハウを伺った。また、近くにある直売所「こんにやくの里」で農産物や加工品等の販売状況を見学した。

次に、天野の里づくりの会会長の谷口千明氏から、世界遺産の丹生都比売神社の説明を受けた後、研修会場を天野地域交流センター「ゆずり葉」に移して、天野の里づくりの会の取り組みについて研修を受けた。ここでは、農産物を活用した交流活動、「企業のふるさと」協定による異業種交流、田舎暮らしフェアへの参加による移住希望者の勧誘、過疎集落等自立再生対策事業を活用した竹パウダーづくり等についてお話を伺った。

6次産業化や地域づくりの取り組みの優良事例を研修でき、大変有意義な研修会となった。



こんにやく工房での研修の状況



地域交流センター「ゆずり葉」での研修

4. 日高川町新果樹研究会がかんきつに関する講演会を開催

7月24日、日高川町農村環境改善センターにおいて、日高川町新果樹研究会（坂田猛会長）がJA紀州と共催でかんきつに関する講演会を開催した。当講演会は果樹の栽培技術向上等を主な目的として毎年開催している。

今回は町内で問題となっている鳥獣害と隔年結果対策をテーマとした。最初に果樹試験場環境部の西村副主査研究員から「鳥獣害対策の基本的な考え方」と題し、農作物以外のエサや潜み場所を減らす集落管理、動物の特性を踏まえて柵を設置するほ場管理、加害個体を適切に捕獲する加害個体管理の3つの対策をバランス良く行うことが大切であるとのお話を伺った。次に同栽培部の中地主任研究員から「高品質生産につながる栽培管理」と題し、おいしい果実を連年結実させるためのポイントや、今後の栽培管理等についてお話を伺った。また、日高川町役場から町単独事業の紹介、JA紀州から本年産かんきつの状況について報告があった。



講演会の様子

5. 印南町4Hクラブが先進地研修会を開催

7月26～27日、印南町4Hクラブ（中村優基会長）が先進地研修会を開催、会員4名が参加した。

本年度は、県も推進するGAPについて、その導入事例や取り組みを研修するため、滋賀県

近江八幡市の農業生産法人浅小井農園株式会社を訪問した。

松村務代表取締役の案内で園内を見学しながら、施設内における GAP に関する取り組み内容や設備等を紹介していただいた後、GAP 導入による作業管理や農業経営上のメリット等について講義を受けた。さらに、自社農産物の販路開拓や商品化、農商工連携による加工品開発の取り組みや、商品ブランド化の考え方についても説明を受けた。

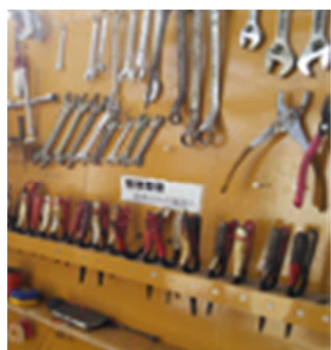
GAP に基づく施設管理だけでなく、事務所の端末やスマートフォンにてハウスの環境制御を一元管理できるシステムなど、さまざまな先進的な設備の導入事例も研修でき、大変有意義な研修会となった。



浅小井農園での研修風景



栽培作物についてのパネル



一目でわかる工具の配置



スマートフォンでハウスの
状況を確認



食品業者と開発した商品

6. 県議会議員と日高地方農業士会との意見交換会

日高地方農業士会（谷廣美会長）は、7月27日に振興局別館会議室において、日高地方選出の県議会議員と日高地方の農業に関する課題について意見交換を行った。地域のリーダーである農業士が日高地方の農業振興に資することを目的に、平成23年から隔年に開催しているもので、同会役員理事15名と議員4名が出席した。今回は各市町の農業士会から提案があった「鳥獣害対策」、「耕作放棄地対策」、「野菜花き生産用ハウスの導入整備」を重点課題として意見交換を行った。

農業士会からは、鳥獣害対策については、被害軽減のため国や県の施策の継続実施や地域の要望に応じた補助事業の財源確保などについて意見が出された。耕作放棄地対策については、農地中間管理事業を活用して農地保全に努めているが、借り手農家も規模拡大が手いっぱい限界にあるという意見が出された。また、水田においては、米価の低迷に加えて主力品種のキヌヒカりは高温障害を受けやすいことから、近年等級の低下を招いており、このままでは、水田を管理する農家がなくなり、耕作放棄地が増加することを心配するなどの意見もあった。野菜花き生産用ハウスの導入整備については、施設園芸の盛んな日高地域にとって施設整備は重要であり、野菜花き産地総合支援事業を活用して、気象災害に耐えられるハウスの導入等、今後も本事業の継続を望む農家の声が非常に大きいとの意見が出された。

重点課題以外には、農業士会女性部会から農家の花嫁対策における婚活イベント開催の課題について意見が出された。

それぞれの課題について、県議会議員から提言や助言をいただき、充実した意見交換会となった。



谷廣美会長開会挨拶



意見交換会の様子

VI 西牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【新品種導入による果樹産地の活性化】

～温州ミカン「YN26」実証園で摘果およびマルチ被覆を実施～

農業水産振興課では、極早生種の有利販売につなげるため、減酸が早く糖度も高い県オリジナル品種「YN26」の導入推進に取り組んでおり、平成25年1月より上富田町に実証園を設置し、展示効果はもとより生産者とともに学ぶ場として有効活用を図っている。

そこで、7月6日に、園主、生産者、JA紀南指導員及び普及指導員16名参加のもと、摘果講習会を開催した。

講師の果樹試験場田嶋主査研究員が、「果実の生育期間が約130日と非常に短いため、早期摘果による果実肥大の促進が重要である」等のポイントを説明しながら実演した。その後、2～3人のグループとなり互いに協議しながら園内40樹（6年生）を摘果した。

参加者は、「房状に下垂している果実の処理はどの様にするか?」、「果梗枝が太くて上向きの果実は8月の仕上げ摘果での処理で良いか?」、「収穫時にM級果実を収穫するための果径の目安は?」等、講師に質問しながら摘果した。

7月18日・19日には、園主、JA紀南指導員、普及指導員でマルチを全面被覆した。マルチは、被覆後に園内へ雨水を取り入れたい時や、次年度以降に被覆する時の作業労力を軽減化するため、鉄管による巻き上げ方式を導入した。

今後も、展示効果を高めるため高品質果実生産に向けた栽培管理に努めるとともに、生産者と一緒に学ぶ機会を作り、導入意欲向上による面積拡大につなげていく。



摘果講習会の風景



マルチ敷設作業の風景

2. 川添茶PR 川添茶を使ったお茶の淹れ方を体験しよう!

7月2日に白浜町阪田の白浜会館で開催された第9回白浜商工祭において、川添緑茶研究会の生産者とともに川添茶をPRするため、お茶の淹れ方講習を行った。小学生から若年の夫婦、年配の方まで幅広い層の参加者計20名程に煎茶の淹れ方を説明し、参加者自らが淹れた煎茶を飲む体験をしてもらった。

紹介した煎茶の淹れ方は4通りで、① 高級煎茶の淹れ方とされる冷まし湯を用いる方法、② 冬場に最適な熱湯を用いる方法、③ 夏場に最適な水出し、④ 煎茶茶碗に茶葉とひたひたの水を入れ、うま味を凝縮させて飲む「すすり茶」である。

煎茶の美味しい淹れ方や川添茶を知らない参加者が多く、初めて味わった川添茶のうま味に驚いていた。

今後も、川添茶の美味しさを消費者に知ってもらうため、イベントなどを通じて生産者とともにPRしていきたい。



煎茶の淹れ方について説明する生産者

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 那智勝浦町苺生産組合が総会・研修会を開催

7月4日、休暇村南紀勝浦において那智勝浦町苺生産組合(杉浦仁組合長)の第47回総会及び研修会が開催された。

当日は組合員9名と来賓として那智勝浦町寺本町長、みくまの農業協同組合村上代表理事組合長、近畿農政局和歌山支局水田総括農政推進官、和歌山農業共済組合笠松課長、新宮中央青果小田社長、農業水産振興課初山課長が出席。冒頭、組合長から「平成28年度は長雨による定植の遅れ、1番果房の成り疲れで2番果房の収穫遅れが課題の年であった。喜ばしい話題は先般、関係機関と共に就農相談を受けイチゴ栽培を志す就農希望者が3名いました。新規就農者を育成しながら産地を維持拡大したい。」と挨拶があった。表彰式では、販売額などに応じ、優秀な成績を残した組合員に対して賞状が授与された。総会では事業報告、事業計画(案)及び役員改選(案)について原案のとおり承認された。

続いて研修会が開催され、和歌山県農業共済組合南部支所事業第一課笠松浩至課長から収入保険制度の導入と農業災害補償制度の見直しについて説明を受けた。組合員からは「収入減少影響緩和対策とどちらが得ですか。」といった質問が出されるなど、活発な研修会となった。

最後に、パック形状変更に伴う重量及び詰め方、出荷時間や予冷温度について検討がなされた。

当課では、今年度も技術研修や現地検討会など普及指導計画に沿って、那智勝浦町苺生産組合の活動を支援していく。



表彰式



研修会

Ⅷ 農林大学校

1. 産官学連携プロジェクト始動！ローソンと協働で商品開発

平成 29 年 4 月に県農林大学校に新設された「アグリビジネス学科」では、実践的なカリキュラムに取り組むため、(株)ローソンと協働で商品開発を行っている。

今回の取り組みは、農業の多様化が進む中、経営感覚に優れた人材の育成を目標とする当学科の授業の一環。

まず、6 月～7 月にかけて(株)ローソンから講師を迎え、商品開発の講義が行われた。

第 1 回目の講義（6 月実施）では、モノの値打ちは買う人の生活・性格・収入で決まるということ、価格はその人の生活スタイルに合わせた中での小さな幸せの 1 つを『オカネ』で表現したものであるということ、そして商品開発とはお客様の要望をカタチにしてその人の生活スタイルにあった価値・価格で提供することであること等の説明を受けた。講義を通して学生たちは、新商品の開発は自分が作りたいものを作るのではなく、どんな人に買ってほしい、食べてほしいかをイメージして作るということを学んだ。

7 月 11 日の第 2 回目の講義は、第 1 回目の講義の宿題として出された「働く男性を応援するおにぎり」というテーマに対し、アグリビジネス学科の学生 8 人がそれぞれ提案した 8 種類の試作品をローソンから提供してもらい、試食・意見交換を行った。各自が提案したおにぎりについてコンセプトを発表すると共に、「食べるときに崩れやすいので海苔を巻いた方が良い」、「魚の臭みを消すために生姜を入れた方が良い」等試食して気づいた点について発表した。

7 月 18 日の第 3 回目の講義では、前回の意見をもとに改良が加えられた試作品を試食して、商品名を決めるためのキーワードやお客さんに伝えたい言葉などについて発表した。また、同時に発売予定の和歌山のデザートについても、学生にイメージが伝えられ、商品名やキャッチコピー、デザインについて検討した。

これら一連の講義を通して学生からは、『商品開発は、自分が作りたい物を作るのではなく、お客様がどのような商品を望むのかをカタチにしていくということがわかった。』、『今後は、農大で栽培している農作物を使った加工品を商品開発してみたい』などの感想が聞かれた。

今後、おにぎり、スイーツ製造工場を見学し、安全管理などの学習を行うとともに、ローソン店舗での販売実習も行う予定である。



講義を受けている様子



プレゼンしている様子

2. 和歌山食材テロワール事業の開催

7月27日に、エコール辻大阪（辻調グループ）の辻製菓マスターカレッジの学生（67名）を迎え、和歌山食材テロワール事業を開催した。

まず校内柿園地において生育環境学習を行った後、県内柿生産者から「伊都地方の柿」と題して講演していただいた。また、「和歌山の果樹の魅力」について、本県で活躍されている辻調グループの卒業生によるトークセッションが行われた。

最後に、「それぞれの立場に立った素材（食材）への思い」をテーマに、両校の学生や柿生産者を交えてグループワークを行った。学生達はお互いが異なる立場であるからこそ、それぞれが望む事や気づくことなどについて新たな発見があり、有意義な意見交換ができた。

和歌山食材テロワールとは・・・

和歌山県食材の生育環境（生育地の土壌、地理、気候、栽培方法）からみた特徴を、和歌山食材テロワールと称し、和歌山ならではの食材のおいしさを発信している。



全体交流会



柿生産農家の講演



トークセッション



意見交換会

IX 農林大学校 就農支援センター

1. 平成 29 年度ウイークエンド農業塾 農業入門コース (第 1 班) 閉講

ウイークエンド農業塾農業入門コース (第 1 班) が 7 月 9 日に閉講した。開講日の 5 月 13 日に大雨の気象警報により、あわや初日から休講になるかも知れないという状況でのスタートだったが、無事 10 日間の全日程を終えることができた。

受講者 6 人のうち 5 人の方が修了し、今後は県内各地域で家庭菜園を楽しんだり、直売所へ出荷するなど取り組み内容は様々だが 5 名全員が何らかの形で農業に携わることになる。



閉講式の様子

2. UI ターン就農相談フェアを開催

7 月 23 日、就農支援センターにおいて、県内で、新たに自立就農や U ターン就農を志す方や農業法人等への就職を希望される方を対象とした「UI ターン就農相談フェア」を開催した。

当日は、大阪府から 4 組、和歌山県内から 2 組の計 6 組 7 人の来場者があった。その内、5 人の方が、農業体験研修も併せて受講し、ブルーベリー、ナス、オクラの収穫・出荷調整やほ場での耕うん実習を体験した。

相談内容は、「就農に関する情報収集をしにきた」、「研修を希望している」、「移住して農業を始めたい」等、様々であり、分かりやすく丁寧に相談に応じた。

今回は、I ターンの先輩就農者も相談員となり、「新規参入の場合は、地域住民の信頼を得ないといけない」等の実体験に基づいたアドバイスを行った。

また、鳥獣害対策コーナーを設けてパネルやワナ等の実物展示も行った。相談終了後、熱心に見入っていた方もいた。

参加者からは、「I ターン先輩就農者の話は参考になった」、「暑い時期の農作業は大変だったが、楽しかった」等の意見があった。



相談会の様子



体験研修の様子

普及活動現地情報 発行・編集

| | | |
|----------------------|-----------------|-----------------|
| 和歌山県農林水産部経営支援課 | TEL073-441-2931 | FAX073-424-0470 |
| 海草振興局農林水産振興部農業水産振興課 | TEL073-441-3377 | FAX073-441-3476 |
| 那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課 | TEL0736-61-0025 | FAX0736-61-1514 |
| 伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課 | TEL0736-33-4930 | FAX0736-33-4931 |
| 有田振興局農林水産振興部農業水産振興課 | TEL0737-64-1273 | FAX0736-64-1217 |
| 日高振興局農林水産振興部農業水産振興課 | TEL0738-24-2930 | FAX0738-24-2901 |
| 西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課 | TEL0739-26-7941 | FAX0739-26-7945 |
| 東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課 | TEL0735-21-9632 | FAX0735-21-9642 |
| 和歌山県農林大学校 | TEL0736-22-2203 | FAX0736-22-7402 |
| 和歌山県農林大学校就農支援センター | TEL0738-23-3488 | FAX0738-23-3489 |